

## 平成28年度第5回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録要旨

- 1 日 時 平成29年3月22日(水) 午後1時30分～午後3時00分
- 2 場 所 千葉競輪場4階多目的室
- 3 出席者 (委員)  
篠崎委員長、藤本委員、高岡委員、山本委員  
(事務局)  
今井経済部長、池原経済企画課長補佐、鈴木主査、山本主任主事  
(日本写真判定株式会社 以下JPF)  
小宮次長、荻原事業長、石塚事業長代理、高橋事業長代理、  
邊田事業長代理、青野

### 4 議 題

- (1) 包括業務委託の進捗状況モニタリングについて(1月～3月)

### 5 会議経過

(篠崎委員長)

議題1の包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、JPFに説明を求める。

(包括業務委託の進捗状況モニタリングについて)

(JPFが配布資料に沿って説明)

(イベントについて)

- ・大晦日から1月3日まで、静岡4日制FI場外発売を行った。ファンサービスとして甘酒の無料配布、抽選でカードルーペを配布した。カードルーペには、スタッフ直筆の年賀状を挟んで配布した。
- ・千葉県健全育成課主催の「青少年の集い」に出展した。幕張のZOZOマリンスタジアムで行われた今回で2回目の開催となるイベント。千葉市内の小学1年生から3年生を対象にしたイベントで、子供たちとプロスポーツ選手たちが触れ合うイベント。バスケットや野球、プロレス、パラリンピックのシッティングバレーなど、色々な団体のスポーツを楽しんだ。千葉競輪場ブースでは、バーチャル競輪ゲームでタイムを競った。子供たちから「筋肉触らせて」という声も上がり、コミュニケーションも取れた。
- ・世界20か国に拠点を持つ自転車ショップRaphaの走行会を行った。Raphaというのはイギリスのロンドンでスタートした、リオ、ロンドン、北京、アテネオリンピック

で金メダルを獲得したブラッドリーウィギンス選手をサポートしている自転車ショップ。

- ・第3回タンデム試乗会を実施した。パラリンピックで銀メダルを獲得された田中まい選手に加えて日本競輪選手会千葉支部長の中村選手も参加した。タンデム自転車交流協会の廣田副会長が指導した。
- ・サイクルクラブの実績をまとめた。現在回数を重ねて、年間の参加者は752名。参加者は、500円支払うか、会費の代わりに当日500円分の購入車券を見せることで気軽に参加できる。今まで競輪を買う機会のなかった方に購入をするきっかけづくりを行っている。
- ・千葉競輪とサイクルクラブのFacebookやtwitterなどで千葉競輪の情報を収集される方からの「いいね数」が、3コンテンツを合計して7,176名になった。今後も、生のイベント情報を出していきたい。
- ・バックスタンドの広告シートを千葉開府890周年から加曽利貝塚に変更した。ライモンと一緒に「かそりーぬ」が広報している。
- ・1月のF I開催東出剛メモリアルカップのテレビ業務に関して、通常よりも選手の情報をもめに扱った。

(売上事業進捗について)

- ・車券売上額の本場収入の1月・2月については、当初目標に届かなかった。
- ・場外収入については、1月は目標に届かなかったが、2月は天候に恵まれ、目標を達成した。
- ・平成27年度のF II開催は正月に絡んだ開催だったため、単純に比較できないが、今年については、約3割の低下となった。
- ・F I開催については、昨年度比約5%の上昇となった。
- ・全国の競輪場での売上が下がっており、本場の売上が前年度よりも下がる傾向が続いている。
- ・1月、2月の千葉競輪場における場外開催の車券売上額は、平成27年度、平成28年度の総開催日数はほぼ変更ないものの、前年比、開催日単価で約15%の減少となった。
- ・F I場外開催は比較的売上を保っている。場外F I開催日数を増やして、全体的な売上を確保したい。
- ・昨年度、ナイター発売の売上が冬季に向かって下がっていったため、今年度は冬季のナイター開催日数を減らした。

(イベントについて)

- ・5月27日土曜日に、第2回キッズケイリンを開催する。競輪場で家族に楽しめるイ

ベントと考えている。前回は約80名が集まり、キッズケイリン終了後にBBQ大会を実施した。

- ・AWAY WE GOのカフェスペースの一般貸出を行いたい。一時的に一般貸し出しを行ったところ、多くのお客様が来場した。

(来年度の包括業務委託について)

- ・売場のコンパクト化、車券の2場売りから4場売りへの対応、千葉を発売してもらうための協力場外競輪場への営業について検討している。また、千葉競輪場に競輪ファン以外の方に来ていただくということを含めて、写真展を実施したい。
- ・キャッシュバックキャンペーンについては、今後、大々的に実施する。
- ・千葉競輪場ラブキャンペーンとして、本場開催中に千葉競輪場の車券をもっとも購入した方を対象にキャッシュバックを行いたい。イベントで解説者の吉井さんにダーツに挑戦してもらい、キャッシュバック金額を上下するような形を検討中。
- ・商圈調査を行った結果、男性30代一人暮らしが多かった。90年代のテレビやアニメはピンポイントで訴求効果が高いと思われる。昼間のお客様のターゲット層として、アニメ好きな方、早朝働いている方、雨の時の建設関係者に絞ったイベントを開催し、本格的なキャンペーンを行いたい。
- ・KEIRIN.JPウェブページの変更で、大きな改修を4月5日、6日のノー競輪デーに行い、7日からリリースされる。投票ページと動画のページが統合され、出走表の情報量が増える。また、これまで民間投票サイトしか行っていなかったポイントサービスを行う。
- ・民間投票サイトの中では、24時間前日購入できるようになる。
- ・残りの1年間で千葉競輪の存廃を決めるため、最後まで売上を伸ばすよう取り組んでいく。今まで競輪の売上の割合からすると場外車券発売の売上が75%を占めていた。電話・インターネット投票でも売上を伸ばしていけるように、次年度は頑張っていく。

(篠崎委員長)

議題(1)包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、モニタリング結果を事務局に説明を求める。

(事務局 山本主任主事)

- ・受託者から提出のあった平成28年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実施していることを確認した。
- ・開催ごとに、千葉競輪開設記念及び1月から3月までの開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

- ・過去の委員会で皆様から提案された意見については情報共有会議で施行者と受託者の間で協議し、先ほど受託者から説明した通り。

(篠崎委員長)

売上に関しては、まだ3月が終わっていないため、結果は出ていないが、見込みは厳しいのか。

(J P F)

- ・今年度の当初の予定では122億円の売上想定をしていたが、110億7,000万円の予測。約10億円届かない。この後、ガールズケイリン1開催があるが、そこで10億円を発売するのは厳しい。今までのF1開催は、5億～7億円くらいで推移している。今回は、発売してくれる場外発売場も多いが競合日程開催も多いため、次回開催は5億円くらいではないかと予想している。また、今までのナイト開催は、10競輪場から15競輪場だったため、ナイト同士の日程は重ならなかった。現在は、全国でおよそ20競輪場に拡大しており、(ナイトの開催日数も多くなった。勤め人も購入できる時間に開催されるため) 買いやすいのはナイトで電話投票により購入する方が多い状況。なお、インターネット投票が増加した理由は、ミッドナイト開催が増えているためと考える。

(高岡委員)

千葉競輪場の売上が思わしくない要因の分析を、報告書にまとめていただきたい。

(J P F)

- ・次回報告する。

(高岡委員)

業界全体の車券売上額が下がっているのか。

(J P F)

- ・業界の車券売上がミッドナイトなどに流れており、全体的な下がりとはまでは言えない。
- ・ナイト開催とミッドナイト開催をしている場が売上を伸ばしている。業界全体の売上額は、平成28年度の12月までのデータで104%と微増している。ナイトとミッドナイトをやっている場が車券売上額を引き上げている。
- ・インターネット投票が伸びている。

(高岡委員)

これから、ナイト、ミッドナイト競輪を千葉競輪場でも実施していこうという考えはあるか。

( J P F )

- ・ミッドナイトは開催が埋まっている。手を挙げても難しい。千葉は施設面でできない状況にある。施設面をクリアしても内部的な調整をしないとできない。

(高岡委員)

千葉競輪場でもナイター、ミッドナイト競輪に参入すれば、車券売上が伸びるのか。

( J P F )

- ・施設の問題もあり、参入が難しい。

(藤本委員)

売上部分の千葉競輪場外ナイターというのは何か。

( J P F )

- ・例えば、松戸競輪場でナイター競輪を開催して、千葉競輪場で発売すること。

(藤本委員)

ナイター場外開催は日数が減り、売上も減っている。これを増やすという考え方はないのか。

( J P F )

- ・冬季になると、お客様は冷暖房完備の場所を選択する。千葉競輪場では、場所によっては、お客様が車券を買う際に一旦外に出なくてはならない所があり、天候に左右される。
- ・開催の状況により増やすことも考えられるが、現在はG I やG II のグレードの高いレースを昼から発売して、そのお客様にナイターも購入していただくことを狙っている。
- ・昨年度は、昼間のF I とナイターで場外発売を実施したが、採算が厳しい。
- ・来年度以降どうするか、開催の日程の状況を見て検討する。

(篠崎委員長)

前回、ガールズケイリンの売上額はそんなに高くないと聞いたが、本場で価値のある使い方をして車券売上に貢献していくということは必要なのか。

( J P F )

- ・ガールズケイリンは、オリンピック種目のケイリンのような国際競技ルールに近い形で実施している。アスリートの女性としての魅力に特化してPRしたい。
- ・先日のガールズコレクションで石井貴子選手が優勝した。田中まい選手も好調をキープしている。注目されている選手を活用したい。
- ・ガールズの選手は自分の選手カードがあり、そのカードにサインをいただいて、キャンペーンとして配布している。今後のガールズケイリン開催で実施していきたい。

- ・お客様が増えるのに車券売上が上がらない、スタッフも積極的なお声がけをやっていく。
- ・プロマイドを集めているガールズファンが多いので、イベントのプレゼントに活用したい。

(篠崎委員長)

田中選手等を活用したイベントでタンデム試乗会があった。情報発信したのか。

(J P F)

- ・市政だよりで掲載した。千葉市の観光関係のホームページでも告知した。なお、ケーブルテレビのジェイコムから取材依頼があり、取材を受けた。

(篠崎委員長)

投票時間の延長は、運営の立場では厳しくならないか。

(J P F)

- ・お客様にとってテレビの締め切り時間というのは、発走5分前で染み付いている。テレビでお客様に積極的案内して、スタッフも直接売場の方に出て、お客様に「締め切りの時間が変更になったので皆様お買い漏れの無いようご注意ください」と、人に対応する予定。

(篠崎委員長)

千葉競輪場の存廃と新しいバンクをどうするのか。

(事務局 池原経済企画課長補佐)

- ・J P Fから提案で、昨年12月に千葉市から関係団体との検討の場を立ち上げた。それに加えて、1月23日に実務担当者会議を同じ関係団体で開催した。そこでは千葉市として新たな競輪についての原案を説明して、各団体と意見交換した。引き続きこういった形で250競輪が進められるのか、業界内でどう進めていくのか検討する。
- ・千葉市が250競輪で公営事業としての競輪を続けていけるのか、収益が出るかの検討を進めている。そのうえで、現状のままの500mバンクでの競輪を、来年度をもって廃止をするのか、もしくは新たな250競輪で事業を存続していくのか、これについての判断を、来年度の上期中に千葉市として行う。

(山本委員)

今後の存廃に関して、250バンクにするのかしないのか、もし決まったらどういう作業、手順で行うのか、スケジュールはどう考えているのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・仮に、競輪事業の廃止ということになると、来年度いっぱい競輪事業を行った後、2

9年度末をもって廃止となる。逆に存続ということになると、競輪場そのものの建設に取り組まなければならない。こういった形で建設するかとか、また競輪場敷地の4分の3が国からの借地であることから、国との交渉をどうするのか。まずは、新しい競輪事業を始めるために必要な内容を検討しなければならない。

- ・時期としては、これだけの施設を1度除去して建て直すことになるので、そう短い間ではできないと考えている。その間、今後も競輪を開催するには施行権を持ち続けなければならないので、千葉市営競輪を開催しなければならない。ただ競輪場はなくなるので、他場を借りて借上げ開催をする。そうすれば施行権を持ち続けられるが、逆にそれをやらないと施行権が無くなって250競輪ができなくなる。
- ・いずれにしても平成29年度上期をもってという話のとおり、そのあとのスケジュールは存廃両方で検討しながら、ある程度決まったら説明する。

(山本委員)

上期で決まるのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・上期末に決まる。仮に廃止になった場合に、廃止のスケジュールに間に合わなくなる。

(山本委員)

仮に廃止する場合、更地にするのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・仮に、競輪場の敷地を返すことになれば、更地にして返すことになる。

(山本委員)

この競輪場が残るという選択肢もあるのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・競輪事業以外の活用の道がない。競輪事業の収入から借地料を払っているが、競輪事業以外では借地料を払えない。現施設を残すことは難しい。

(山本委員)

存続するにしても廃止するにしても、現競輪場がなくなるのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・その可能性が高い。

(山本委員)

かなり大きな工事になるが、近隣の住民への影響はどう考えているのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・大規模な解体工事になるので、スケジュールや開催に影響のないように説明をして、了解を得たい。

(山本委員)

大体どれくらいの期間できれいになるのか。

(事務局 池原経済企画課長補佐)

- ・公共工事でやると、設計に1年かかると思われる。解体についても1年～2年はかかると考えている。

(山本委員)

そのまま千葉競輪場で競輪事業を続けることはあるのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・平成27年1月に表明しているのが、500mバンクで競輪事業をやるかやらないかということ。500mバンクで続けるということは、施設の改修もあり、無理だと思う。続けるとしたら、250の新しいタイプでの競輪をやるか、あるいは競輪を廃止するか、どちらかということになる。

(山本委員)

250でやるとなったら、その間、千葉市営競輪を松戸で開催するのか、もしかしたら、1年くらい設計に時間がかかることもあるのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・決まればすぐに解体に入る予定。借地料があり、間が空けば空くほど収入が無いのに支出が生じる。存廃を決定した後、すぐに次のステップに移らなければならない。

(山本委員)

JPFが委託される内容は、存続だろうが廃止だろうが3月までの業務内容は変わらないのか。

(事務局 今井経済部長)

- ・基本的には平成29年度まで包括委託業務をお願いしている。

(篠崎委員長)

議題1について了承。